



ヨーガン レール 文明の終わり

Jurgen Lehl
The End of Civilization

2017年8月5日(土) ~
2017年11月5日(日)

展覧会名	ヨーガン レール 文明の終わり Jurgen Lehl The End of Civilization
会 期	2017年8月5日(土)~2017年11月5日(日) 開場時間 / 10:00~18:00 (金・土曜日は20:00まで) 休 場 日 / 毎週月曜日(ただし8月14日、9月18日、10月9日、10月30日は開場)、9月19日、10月10日
会 場	金沢21世紀美術館 展示室5、13
料 金	一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金 ※「日々の生活一気づきのしるし」展と共通のチケット 前売りチケット: チケットぴあ TEL 0570-02-9999 (Pコード[本展観覧券] 768-377) ローソンチケット TEL 0570-000-777 (Lコード[本展観覧券] 52171) 販売期間: 11月5日(日)まで
主 催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

展覧会について

自然とともに暮らし、その尊さを伝えてきたデザイナー、ヨーガン レール(1944-2014)が「最後の仕事」に選んだのは、深刻な環境の問題に向かい、海岸に打ち寄せられた廃品のプラスチックから美しい照明を作り出すことでした。決して自然に還ることのないプラスチックが、再び実用の場を与えられ輝き出します。

また、展覧会ではこれらの照明と共に、ヨーガン レールが、その唯一無二の美しさに魅了され、長い時間をかけて拾い集めた、ババグーリ／瑪瑙石を展示いたします。この対照的な展示には、2014年に急逝したヨーガン レールの、自然への敬意をもって生きることの強いメッセージが込められています。

展覧会の特徴

2014年に急逝したヨーガン レールの「最後の仕事」

晩年移住した石垣島で、海岸がプラスチックのゴミで埋め尽くされているのを悲観したヨーガン レールは、このゴミで人の役に立つ美しいものを作ろうとランプを作り始めました。ヨーガン レールは、これを「最後の仕事」と位置づけ130以上のランプの制作を続けましたが、2014年の事故で急逝し、実質的に「最後の仕事」となりました。ヨーガンの軽やかで強いメッセージが輝く光とともに感じられることでしょう。



Photo: MINAMOTO Tadayuki

自然の美しさへの敬意: 瑪瑙石「ババグーリ」

ババグーリとは、インドで採れる瑪瑙石のことで、ヨーガン レールは長年にわたってこの石を拾い集めていました。自然の美しさに敬意を払い仕事をしてきたヨーガン レールの生き方を伝えるコレクションです。ヨーガン レールは、「自然への尊敬の念を込めて、環境を汚さない、土に還る素材で、丁寧な仕事をされた服や暮らしの道具など、自分にとって必要不可欠なものを作りたい」と手仕事を尊重したブランドを立ちあげ、「ババグーリ」と名づけました。



ババグーリ(瑪瑙石): ヨーガン レールが拾集した石

Photo: Jurgen Lehl

一人ひとりの小さな力を大きな力へ

自然を愛し、その美しさを尊び、自然に近いところでものを生み出してきたヨーガン レールが、発想を180度転換し、醜い人工的なゴミから、実用的な美しいものを作ろうと生み出したランプです。一人ひとりの小さな力が集まることで大きな力になると信じたヨーガン レールのメッセージは映像やテキスト、写真でも伝えられます。子どもたちもおとなたちも、「文明の終わり」を招き寄せないための小さな一歩について考えてもらいたいというヨーガン レールの思いを、この展覧会を通じて届けます。

作家プロフィール

3



Photo: MINAMOTO Tadayuki

ヨーガン レール

1944年、ドイツ人。

1971年来日、ヨーガン レール社を設立。

オリジナルのテキスタイルやジュエリー、また家具や器など幅広いデザインを手がける。

2006年、環境に配慮し、手仕事のものづくりを大事にしたブランド、Babaghuri(ババゲーリ)を始める。

2014年、逝去。

ヨーガン レールの言葉

「文明の終わり」(2014年9月)

沖縄にある海辺の家で1ヶ月の3分の1を過ごすようになって、15年になります。畑を耕し、創作のアイデアを練る合間に、犬の散歩と気分転換を兼ねて家の前の浜辺におるのが私の日課ですが、その度に悲しみと怒りが縋り交ぜになったような複雑な気持ちになるのです。

砂浜を歩きながら、美しい貝殻や珊瑚のかげらを拾うのを楽しみにしていますが、貝殻や珊瑚にも増して目に付くのが、流れ着く大量のゴミだからです。

時にはガラス製の古いブイが流れ着いたりして、面白く思うこともありますが、流れ着くゴミのほとんどは醜いプラスチック製品のなれの果て…。発泡スチロールの切れ端、ペットボトルのふた、洗剤の容器や子供のおもちゃなど、日本のものもあれば、どこかアジアの国から流れ着くものもあります。見つける度に拾い集めるのですが、次の日にはまた流れついていきます。

とうとう私はそれらのゴミを集めて、色ごとに分類して何かを作り出そうと思いました。ゴミだけで何かを作り出せるほどに沢山流れ着くので、そのことを多くの人に知って欲しかったからです。

先日、旅をして与那国島の浜辺に降り立つ機会がありました。砂に足を踏み入れて歩くうちに何ともいえない違和感を覚えました。思わず砂に手を差し込んでつかみ、目をこらしてみても衝撃を受けました。砂の中に、砂と同じくらい細かく砕かれたプラスチック片が、びっしりと混ざっているのが分ったからです。

遠目には美しく見える砂浜なのに、こんなことになってしまっている。誰でもない、人間がしたことです。これは文明の終わり…。私にはそう思えてなりませんでした。

私は日本人ではありませんが、この国に来て40年以上も住んでいます。美しかった日本を覚えています。もしも許されるなら、ずっとこの国で暮らしたい。

だから知って欲しいのです。こんなに汚れてしまったことを、そして、ゴミを取り除くことの必要性を、ゴミを出さない暮らしの重要性を。これは日本だけの問題ではなく、世界中に伝えたいことです。

ゴミには目に見えるものもあれば、目に見えないものもあることを皆さんはご存じでしょう。そのどちらも増え過ぎれば、文明の終わりを招き寄せます。おそらく地球自身は、自浄の努力をしていることでしょう。けれど、浄化のための大きな力になるのは、一人ひとりの小さな人間の力の集結でしかないのです。

もし、多くの人がそのことに気付くために何かができるなら、今しなければならぬと思う気持ちを止めることはできません。

醜いプラスチックのゴミを大量に見せただけでは、その恐ろしさを分かってもらえないのなら、私はそのゴミを使って、何か自分が美しいと思うものを作り出す努力をします。ただ美しいだけのオブジェではなく、もう一度人の役に立つ実用的なものに変えましょう。これは、ものを作ることを仕事にしている私の小さな抵抗です。それによって、この大量のゴミに目を向けてもらえるように。私はこれを自分の最後の仕事だと思っています。

広報用画像

画像1～6を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※広報用画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを必ずご表示ください。

※トリミングをご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正用原稿を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何とぞよろしくお願いいたします。

4



石垣島のビーチでゴミを拾うヨーガン レール
Photo: TAHARA Ayumi

5



《ヨーガン レールの最後の仕事》2011-2014
「おとなも子どもも考える ここはだれの場所？」(東京都現代美術館、2015) 展示風景[参考画像]

6



Photo: Jurgen Lehl